

## 理科の要点シリーズ・5年上・前期 [問題]

氏名( )

(3の1)

- (01) タンポポの花びらは( )まい。
- (02) タンポポのめしべは( )本。
- (03) タンポポのおしべは( )本。
- (04) タンポポのがくは( )になっている。
- (05) カブトムシは、( )の状態でごしをする。
- (06) カマキリは、( )の状態でごしをする。
- (07) モンシロチョウは、( )の状態でごしをする。
- (08) アゲハは、( )の状態でごしをする。
- (09) オビカレハは、( )の状態でごしをする。
- (10) ナナホシテントウは、( )の状態でごしをする。
- (11) キチョウは、( )の状態でごしをする。
- (12) バッタは、( )の状態でごしをする。
- (13) ミツバチは、( )の状態でごしをする。
- (14) 気体の体積は、温度が1 上がるごとに、0 のときの体積の( )分の1ずつ増える。
- (15) 水は( ) のときの体積が最も小さく、1 gの体積が約( )立方センチメートル。
- (16) 水がこおり始めるときの温度は( )。
- (17) 水がこおると、体積は約( )分の1だけ増える。
- (18) 水は温度が( )になると( )し、水の内部からモサカんに( )のあわが出る。
- (19) 水が水じょう気になると、体積は約( )倍になる。
- (20) 温度計で温度を読み取るとき、目もりの( )分の1までを目分量で読み取る。
- (21) 気温をはかる場所は、地上( )mから( )mまでの、( )のよい( )。
- (22) 気温を1日に1回はかるときは、1日の( )気温に近い、午前( )時にはかる。
- (23) 百葉箱は、( )いペンキでぬってあり、( )をよくするためよろい戸を使っている。
- (24) 地中 30 cmまでの浅い地中の温度をはかるときは、( )を使う。
- (25) 地中深いところの地中の温度をはかるときは、( )を使う。
- (26) 晴れた日の気温は、( )時ごろ最高になり、( )前に最低になる。
- (27) 晴れた日の地温は、( )時ごろ最高になり、( )前に最低になる。

(3の2)

- (28) 気温と地温では、( )の方が日較差が大きい。
- (29) 雲量( )が快晴、( )が晴れ、( )がくもり。
- (30) 雨量の単位は( )。
- (31) 風向は、観測時刻前の( )分間で最も多くさした方向を、( )方位で表す。
- (32) 風速の単位は( )。
- (33) 風力は、( )までの( )段階で表す。
- (34) 気圧の単位は( )。
- (35) 風は( )気圧から( )気圧に向かってふく。
- (36) 水と土とをくらべると、( )の方があたたまりやすく、冷えやすい。
- (37) 晴れた日の海岸地方では、昼間は( )が、夜間は( )がふく。
- (38) 晴れた日の海岸地方では、1日に( )回、風がやんでいるときがある。これを( )という。
- (39) 夏は( )からの季節風がふき、冬は( )からの季節風がふく。
- (40) 冬の季節風は、日本海上でたくさんの( )をふくんで、( )状の雲をつくる。
- (41) 地球の自転によって、日本の上空にはいつも強い( )からの風がふく。これを( )という。
- (42) しめった風が山をこえてかわいた熱風になる現象を、( )現象という。
- (43) 6～7月ごろ、長い雨やくもりの日が続く。この時期を( )という。
- (44) 熱帯地方で発生した( )が、風速が毎秒( )m以上になったものを台風という。
- (45) ( )は、地域気象観測システムの略語。
- (46) 気象衛星の( )は、地上からは止まっているように見えるので、( )衛星とよばれる。
- (47) 星座は全天に( )あり、日本からは( )くらいを見ることが出来る。
- (48) 最も明るい21個の恒星を( )等星とする。肉眼でやっと見える( )等星の( )倍の明るさ。
- (49) 表面温度が高い星は( )く見える。( )や( )など。
- (50) 表面温度が低い星は( )く見える。( )や( )など。
- (51) 春の1等星には、次のものがある。  
...うしかい座の( )、おとめ座の( )、しし座の( )

(3の3)

- (52) 夏の1等星には、次のものがある。  
 ...わし座の( ), こと座の( ),  
 はくちょう座の( ), さそり座の( )
- (53) 冬の1等星には、次のものがある。  
 ...おおいぬ座の( ), こいぬ座の( ),  
 ぎょしゃ座の( ), ふたご座の( ),  
 おうし座の( ),  
 オリオン座の( )と( )。
- (54) 北の空の星は、北極星を中心にして1時間に( )度ずつ、  
 ( )まわりにまわって見える。
- (55) 北極星の高さをはかると、その地点の( )がわかる。
- (56) ま東から出てま西にしずむ星は、( )座の三つ星。
- (57) 太陽のように自分で光っている星を( )といい、そのまわりを回っているのが( ), そのまわりを回っているのが( )。
- (58) ( )は、月と同じように満ち欠けをし、よいの明星・明けの明星とよばれる。
- (59) 新月から次の新月までは( )日かかる。
- (60) 月の自転周期は( )日で、公転周期は( )日。だから、( )。
- (61) 上げんの月が南中するのは( )ごろ。
- (62) 三日月は、( )ごろ、( )の空に見える。
- (63) 日食は( )月のときにおこり、太陽・( )の順。
- (64) 月食は( )月のときにおこり、太陽・( )の順。
- (65) 水1gを1 上昇させる熱量を1( )という。
- (66) 物の中を温度の高い方から低い方に、順じゅんに伝わるような熱の伝わり方を、熱の( )という。
- (67) 銅・鉄・アルミニウムを、熱の伝わりやすい順に並べると、( )。
- (68) 液体や気体の中を、物が移動することによる熱の伝わり方を、熱の( )という。
- (69) ( )からの熱のように、宇宙空間や大気の層と無関係に直接やってくるような熱の伝わり方を、熱の( )という。
- (70) ( )い色は熱を吸収しやすく、( )い色は熱を反射しやすい。
- (71) 銅・鉄・アルミニウムを、熱によるぼうちょうのしやすさの順に並べると、( )。
- (72) 熱によるぼうちょうの割合がちがう2種類の金属板をはり合わせたものを、( )という。
- (73) 物体をある1点を支点として支えてつりあったとき、その点を( )という。

## 理科の要点シリーズ・5年上・前期 [ 解答 ]

( 3 の 1 )

- (01) タンポポの花びらは( 5 )まい。
- (02) タンポポのめしべは( 1 )本。
- (03) タンポポのおしべは( 5 )本。
- (04) タンポポのがくは( かん毛 )になっている。
- (05) カブトムシは、( よう虫 )の状態でごしをする。
- (06) カマキリは、( たまご )の状態でごしをする。
- (07) モンシロチョウは、( さなぎ )の状態でごしをする。
- (08) アゲハは、( さなぎ )の状態でごしをする。
- (09) オビカレハは、( たまご )の状態でごしをする。
- (10) ナナホシテントウは、( 成虫 )の状態でごしをする。
- (11) キチョウは、( 成虫 )の状態でごしをする。
- (12) バッタは、( たまご )の状態でごしをする。
- (13) ミツバチは、( 成虫 )の状態でごしをする。
- (14) 気体の体積は、温度が1 上がるごとに、0 のときの体積の( 273 )分の1 ずつ増える。
- (15) 水は( 4 ) のときの体積が最も小さく、1 gの体積が約( 1 )立方センチメートル。
- (16) 水がこおり始めるときの温度は( 0 )。
- (17) 水がこおると、体積は約( 10 )分の1 だけ増える。
- (18) 水は温度が( 100 )になると( ふっとう )し、水の内部からもさかんに( 水じょう気 )のあわが出る。
- (19) 水が水じょう気になると、体積は約( 1600 )倍になる。
- (20) 温度計で温度を読み取るとき、目もりの( 10 )分の1 までを目分量で読み取る。
- (21) 気温をはかる場所は、地上( 1.2 )mから( 1.5 )mまでの、( 風通し )のよい( 日かげ )。
- (22) 気温を1日に1回はかるときは、1日の( 平均 )気温に近い、午前( 9 )時にはかる。
- (23) 百葉箱は、( 白 )いペンキでぬってあり、( 風通し )をよくするためよろい戸を使っている。
- (24) 地中 30 cmまでの浅い地中の温度をはかるときは、( 曲管地中温度計 )を使う。
- (25) 地中深いところの地中の温度をはかるときは、( 鉄管地中温度計 )を使う。
- (26) 晴れた日の気温は、( 午後2 )時ごろ最高になり、( 日の出 )前に最低になる。
- (27) 晴れた日の地温は、( 午後1 )時ごろ最高になり、( 日の出 )前に最低になる。

( 3 の 2 )

- (28) 気温と地温では、( 地温 )の方が日較差が大きい。
- (29) 雲量( 0 ~ 1 )が快晴、( 2 ~ 8 )が晴れ、( 9 ~ 10 )がくもり。
- (30) 雨量の単位は( ミリメートル )。
- (31) 風向は、観測時刻前の( 10 )分間で最も多くさした方向を、( 16 )方位で表す。
- (32) 風速の単位は( 毎秒何メートル )。
- (33) 風力は、( 0 ~ 12 )までの( 13 )段階で表す。
- (34) 気圧の単位は( ヘクトパスカル )。
- (35) 風は( 高 )気圧から( 低 )気圧に向かってふく。
- (36) 水と土とをくらべると、( 土 )の方があたたまりやすく、冷えやすい。
- (37) 晴れた日の海岸地方では、昼間は( 海風 )が、夜間は( 陸風 )がふく。
- (38) 晴れた日の海岸地方では、1日に( 2 )回、風がやんでいるときがある。これを( なぎ )という。
- (39) 夏は( 南東 )からの季節風がふき、冬は( 北西 )からの季節風がふく。
- (40) 冬の季節風は、日本海上でたくさんの( 水蒸気 )をふくんで、( すじ )状の雲をつくる。
- (41) 地球の自転によって、日本の上空にはいつも強い( 西 )からの風がふく。これを( 偏西風 )という。
- (42) しめった風が山をこえてかわいた熱風になる現象を、( フェーン )現象という。
- (43) 6 ~ 7月ごろ、長い雨やくもりの日が続く。この時期を( 梅雨 )という。
- (44) 熱帯地方で発生した( 熱帯低気圧 )が、風速が毎秒( 17.2 )m以上になったものを台風という。
- (45) ( アメダス )は、地域気象観測システムの略語。
- (46) 気象衛星の( ひまわり )は、地上からは止まっているように見えるので、( 静止 )衛星とよばれる。
- (47) 星座は全天に( 88 )あり、日本からは( 50 )くらいを見ることが出来る。
- (48) 最も明るい21個の恒星を( 1 )等星とする。肉眼でやっと見える( 6 )等星の( 100 )倍の明るさ。
- (49) 表面温度が高い星は( 青白 )く見える。( スピカ )や( リゲル )など。
- (50) 表面温度が低い星は( 赤 )く見える。( アンタレス )や( ベテルギウス )など。
- (51) 春の1等星には、次のものがある。  
...うしかい座の( アルクトゥルス )、おとめ座の( スピカ )、しし座の( レグルス )

- (52) 夏の1等星には、次のものがある。  
 ...わし座の( アルタイル ), こと座の( ベガ ),  
 はくちょう座の( デネブ ), さそり座の( アンタレス )
- (53) 冬の1等星には、次のものがある。  
 ...おおいぬ座の( シリウス ), こいぬ座の( プロキオン ),  
 ぎょしゃ座の( カペラ ), ふたご座の( ポルックス ),  
 おうし座の( アルデバラン ),  
 オリオン座の( ベテルギウス )と( リゲル )。
- (54) 北の空の星は、北極星を中心にして1時間に( 15 )度ずつ、  
 ( 反時計 )まわりにまわって見える。
- (55) 北極星の高さをはかると、その地点の( 緯度 )がわかる。
- (56) ま東から出てま西にしずむ星は、( オリオン )座の三つ星。
- (57) 太陽のように自分で光っている星を( こう星 )といい、そのまわりを回っているのが( わく星 ), そのまわりを回っているのが( えい星 )。
- (58) ( 金星 )は、月と同じように満ち欠けをし、よいの明星・明けの明星とよばれる。
- (59) 新月から次の新月までは( 29.5 )日かかる。
- (60) 月の自転周期は( 27.3 )日で、公転周期は( 27.3 )日。だから、( 月の裏側が見えない )。
- (61) 上げんの月が南中するのは( 夕方 )ごろ。
- (62) 三日月は、( 夕方 )ごろ、( 西 )の空に見える。
- (63) 日食は( 新 )月のときにおこり、太陽・( 月 ・ 地球 )の順。
- (64) 月食は( 満 )月のときにおこり、太陽・( 地球 ・ 月 )の順。
- (65) 水1gを1 上昇させる熱量を1( カロリー )という。
- (66) 物の中を温度の高い方から低い方に、順じゅんに伝わるような熱の伝わり方を、熱の( 伝導 )という。
- (67) 銅・鉄・アルミニウムを、熱の伝わりやすい順に並べると、  
 ( 銅 ・ アルミニウム ・ 鉄 )。
- (68) 液体や気体の中を、物が移動することによる熱の伝わり方を、熱の( 対流 )という。
- (69) ( 太陽 )からの熱のように、宇宙空間や大気の層と無関係に直接やってくるような熱の伝わり方を、熱の( 放射 )という。
- (70) ( 黒 )い色は熱を吸収しやすく、( 白 )い色は熱を反射しやすい。
- (71) 銅・鉄・アルミニウムを、熱によるぼうちょうのしやすさの順に並べると、  
 ( アルミニウム ・ 銅 ・ 鉄 )。
- (72) 熱によるぼうちょうの割合がちがう2種類の金属板をはり合わせたものを、  
 ( バイメタル )という。
- (73) 物体をある1点を支点として支えてつりあったとき、その点を( 重心 )という。